

8901 少年はその夜はじめて英語の受験参考書に・・・

少年はその夜はじめて英語の受験参考書に目を通した。それまでは、英語を勉強する必要を感じなかったのである。富山湾に面した港町で小学校をおえ、隣県の金沢市の中学へ通っているあいだに、自家が没落し、借金取りに追われて一時一家はすがたをかくさざるをえなかったことがあった。そういうとき、二年半ほど少年は金沢のアメリカ人の牧師の家にあずけられ、学校から帰宅するともっぱら英語で暮らさなければならなかったもので、英語のことは、なんでもなかったのである。

堀田 善衛『若き日の詩人たちの肖像』

[許容訳例]

For the first time that night the boy looked through a book for students taking English examination. Until then, he hadn't felt it necessary to study English. After leaving elementary school in a harbor town facing Toyama Bay, he had attended a middle school in Kanazawa City, in a neighboring prefecture, but his family had fallen on hard times and been chased by debt collectors, so that they had had to hide for a while, during which time he had been left in an American clergyman's care in Kanazawa for two years and a half and had had to use English every day after returning from school, so English presented no problems for him.

[翻訳例]

That night for the first time, the boy looked through a book for students taking exams in English. Until then, he had never felt any necessity to study the language. He had been to primary school in a harbor town on Toyama Bay, then had gone to middle school in Kanazawa city, in the next prefecture. During this period, his family fell on hard times, and was obliged at one time to go into hiding to avoid its creditors. At this stage, he had been left for two years and a half at the home of an American clergyman in Kanazawa, where he had been obliged to make do almost entirely in English once he got home from school every day, so that English was a perfectly everyday thing for him.

■少年はその夜はじめて英語の受験参考書に目を通した。(8901)

★「少年」は「特定の少年」なので「了解要請の the」を付けて the boy となります。

★「その夜はじめて」は、そのままの順序で that night for the first time でしょう。for the first time that night でも間違いではありません。

★「英語の受験参考書」は、入試に備えて受験生が勉強するための参考書ということで決まった言い方はないので、適当に意味をとって訳すしかないでしょう。たとえば、a book for students taking examinations in English など。辞書で「参考書」を引くと reference book が出てきますが、これは辞書とか百科事典とか、手元に置いて必要なときに参照するもののこ

とです。また、和英辞典で「英語の参考書」を見ると a reference book for [a key to] the study of English と出ていることがあります。間違いではありませんが、具体的に考えると、英語の勉強の仕方を扱っているのか、英語そのものを扱っているのか曖昧です。

★「目を通した」には「どんな内容かパラパラとめくってみる」という場合と、書類のようなものを一通り読む」という場合があります。その場合は read through ~ ですが、前者の場合でしたら look through ~ でしょう。「軽く読んだ」という場合なら glance through も使えます。

■それまでは、英語を勉強するの必要を感じなかったのである。(8901)

★「それまでは」は until then でしょう。

★「英語を勉強する」は to study English です。

★「・・・するの必要を感じない」はいろいろな言い方が可能です。do not feel it necessary to... とか do not feel any [the] necessity to... とか feel no need to... とかが使えます。

★「感じなかったのである」は、「目を通した」より以前のことを述べるのですから didn't feel ではなく had not [hadn't] feel ... です。

■富山湾に面した港町で小学校をおえ、隣の金沢市の中学へ通っているあいだに、自家が没落し、借金取りに追われて一時一家はすがたをかくさざるをえなかったことがあった。(8901)

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(富山湾に面した港町)

「富山湾に面した港町」は「連体修飾節(富山湾に面した)＋体言(港町)」なので、英語では「名詞(a harbor town)＋関係詞節(which faces Toyama Bay)」ですが、「関係代名詞＋現在時制」は現在分詞で表すことができるので a harbor town facing Toyama Bay とするのが英語の習慣です。なお、facing は on (～沿いの) に代えることも出来ます。

★「港町」は a harbor town です。a port は「港町」と言うにはちょっと大きな感じがします。なお、普通 port には town を付けません。

★「(港町)で」は in です。

★「小学校をおえる」ですが、イギリスでは「学校をおえる」は leave school ですから、ここでは leave primary [elementary] school です。

◆無冠詞(主学校をおえる)

「小学校をおえる」は、特定の小学校を出るという意味ではなく「小学校課程をおえる」ということですから無冠詞です。

●「お[え]」(連用形)

[おえ]は「おえ[て、それから](and) then」とも「おえ[てから・たあとに]」(after)とも解釈することができます。after を使う場合、after he had left ~ でもいいですが、後に続く主節でも過去完了を使うので、after leaving ~, ... とした方がいいです。なお、下の●[あいだに]の項参照。

★「隣の」は in a neighboring prefecture でも許されますが、neighboring とか neighbor

は複数名詞と一緒に使うのが普通です。ですから、ここでは in the next prefecture がいいでしょう。この場合の next は「次の」ではなく「隣の・一番近い(nearest)」の意味です。

#### ◆無冠詞（中学に通う）

「金沢市の中学へ通う」は attend a middle school in Kanazawa city でもいいですが、「中学課程」という意味で不定冠詞をとって attend middle school in ~としても構いません。

★「へ通っている」は、英語的には「通っていた」ですから、完結文では he had attended ですが、「あいだに」の訳し方によっては「通っていた（とき・・・）」という非完結文になるので he had been attending とすることになります。下の●[ながら]を参照。

★「（～へ通っている）あいだに」は「～へ通っていた。その間・・・」と切った方がすっきりします。「その間」は During this period です。ただし、どうしても日本文と同じように文を続けたいなら、during which period とすることもできます。

★「自家が没落した」は his family fell [had fell] on hard times くらいです。

#### ●[連用形]

「自家が没落[し]」は「動作順次」として and でしょう。

●[ながら]と「文構造」（「Aの[あと]、Bしている[あいだに→時に]、Cが起きた」における[関係性指標] after と when の組み合わせと述語動詞の関係）

日本語で「あいだに」と言えば「・・・している[あいだに]～が起こった」という文脈になります。ここは更に複雑で「Aの[あと]、Bしている[あいだに]、Cが起きた」となっています。これを英語で表現する際に、After A（小学校をおえ）、B（中学校に通っている時に）、when C（自家が没落した）を使うと、「B（中学校に通っている時に）」はC（自家が没落した）の背景的動作と関知する習慣があるので he had been attending..., when... となります。ただ、過去完了（進行）形が続くような場合には he was attending... を使ってもかまいません。ここはそのよい例だと思います。ところで、上で「after を使う場合、after he had left ~でもいいですが、後続く主節でも過去完了を使うので、after leaving ~, ...とした方がいい」と述べたのは、After leaving primary [elementary] school, he had been [was] attending middle school, when... なら、一部(after leaving...)の比重が下がって英文として素直に読めるからです。After he had left primary [elementary] school, he had been [was] attending middle school, when... としても文法的には問題ないのですが、情報文法的は三つの部分(A,B,C)の比重が同じになって、英文としてぎこちないのです。非常に難しいのですが、たとえば、After I left here, I was walking along a road when I met him. が英文として許されるのは I was walking along a road が挿入的な感じで、言いたいことは After I left here, I met him. が中心になっていると関知されるからです。

★「借金取りに追われる」は was run after by debt collectors でも意味は通じますが、英語的ではありません。この表現を使うなら run after ではなく chased [pursued] でしょう。run after でも間違いではありませんが、いかにも実際に息を切らせて後を追っかけているという感じで、ここではちょっと具体的になりすぎます。「借金取りに追われて」は、普通は under

the pressure of debts ですが、「すがたをかくす」まで訳出すると to avoid in creditors でしよう。

●「[て]・・・せざるをえなかった」(「動作順次」なら and, 「因果関係」なら so that)

「借金取りに追われ[て]一時一家はすがたをかくさざるをえなかった」の[て]は「動作順次」として and でもよいし、すぐ前で and を使っているので…, being obliged…としてもかまいません。また、「・・・[結果として]」と解釈するなら so that they had to [was obliged to]...です。なお、so that を so で済ませるわけにはいきません。so はあくまでもいくつかの動詞があって、「こうなったから・・・になった」と順序よく因果関係を述べることになるのですが、ここではそうではなく「～の結果として・・・せざるをえない状態になった」とあくまでも結果としての状態を述べているので so ではなく so that を使うわけです。

★「一時」は at one time ですが、at one stage とか for a while でもいいです。

★「(一家は) すがたをかくす」は hide ですが、動作の範囲が広いので go into hiding (すがたをかくすという行動をする) と絞ってもいいです。

★「せざるをえなかった」は was obliged to…とか had to も使えます。

■そういうとき、二年半ほど少年は金沢のアメリカ人の牧師の家にあずけられ、学校から帰宅するともっぱら英語で暮らさなければならなかったのも、英語のことは、なんでもなかったのである。(8901)

★「そういうとき」は at this stage [time]でしょう。前に続けるなら during which time です。

★「二年半ほど」は for two years and a half です。「ほど」はこの表現の中に含まれます。強いて or so を付ける必要はありません。

★「金沢のアメリカ人の牧師の家にあずけられ」は he had been left with [at the home of] an American clergy-man in Kanazawa とか he had left in an clergyman's charge in the charge of an American clergyman]in Kanazawa などです。なお、charge は何か持ち物でも預かってもらうような冷たい感じになるので care にすると優しい感じになります。

●[連用形](預けら[れ])

「牧師の家にあずけら[れ]」の[れ]は「動作順次」(それで・そして)の意味ですから and でもいいのですが、「そしてそこでは・・・」の意味にすると「コンマ+where(=and there)…」で結ぶことも出来ます。

★「学校から帰宅する」とは、後に続く「もっぱら英語で暮らさなければならなかった」の日本語に潜んでいる感じを込めて訳すと once he got home from school (every day)ですが、表層通りに after returning [coming] from school でも構いません。

★「もっぱら」は almost exclusively が一番近い表現と想われますが、次の「英語で暮らさなければならなかった」の書き方によっては for almost everything とか almost entirely も使えます。

★「英語で暮らす」は use English for almost everything とか、make do almost entirely in

English とかでしょう。make do は、しばしば have to と組み合わせて「なんとか済ませる」とか「間に合わせる」とかの意味で使われる表現です。ここでは「なければならなかった」を意味する had been obliged to とか had had to に続いて使うことになります。

● [ので]

「学校から帰宅するともっぱら英語で暮らさなければならなかった [ので]」は so (that) を使うことができます。

★「英語のことは、なんでもなかった」は、意味を解釈して訳すしかないでしょう。「なんでもない」は、辞書には no problem が出ています。これを使って English presented no problems for him とするか、(speaking) English was a perfectly everyday matter for him と意訳するしかないと思います。